

八重山地区オニヒトデ対策の現状と課題

(1) 平成 21 年度の石西礁湖周辺でのオニヒトデ対策を巡る動きについて

平成 21 年 8 月に八重山オニヒトデ対策協議会が発足（会長：漁協與儀青年部長、副会長：沖縄県鹿熊氏、事務局：石垣自然保護官事務所と八重山ダイビング協会）。予算を確保した沖縄県及び石垣市も参加し、今年度のオニヒトデの駆除方針を確認。

保全を優先すべき地区として、漁協よりサクラグチ・ユイサーグチ・ウーロマガイ、八重山ダイビング協会より御神崎・川平石崎・米原ダブルリーフ、竹富ダイビング組合より鳩間西・バラス、環境省より黒島東を提案。基本的にはこれらの地域で対策を行うことで同意。（ただし、御神崎・川平石崎・米原ダブルリーフはオニヒトデの進入が深刻ではないので周辺地域での対策も視野に入れた。）

今後オニヒトデの発生状況及び対策状況をみて、駆除地点の取捨選択も必要に応じ協議する。

(2) 平成 21 年度の環境省駆除事業について

先回の支援専門委員会の議論を受け、駆除海域の集中及び駆除開始の初期段階は駆除努力を多く投下し徹底駆除。その後はモニタリングを中心に、オニヒトデを見つけたら駆除を行う。環境省は八重山オニヒトデ対策協議会の議論を受け、黒島東とユイサーグチ周辺の 2 地域を担当。

- ・黒島東岸礁池の移植地点（再生区 4）及び東岸礁斜面のサンゴ被度 50～75%域（50m×50m 程度）を対象として実施する。
- ・ユイサーグチ周辺については漁協に駆除事業を発注。5 地点（1 地点 50m×50m）で駆除を実施する。

(3) 課題について

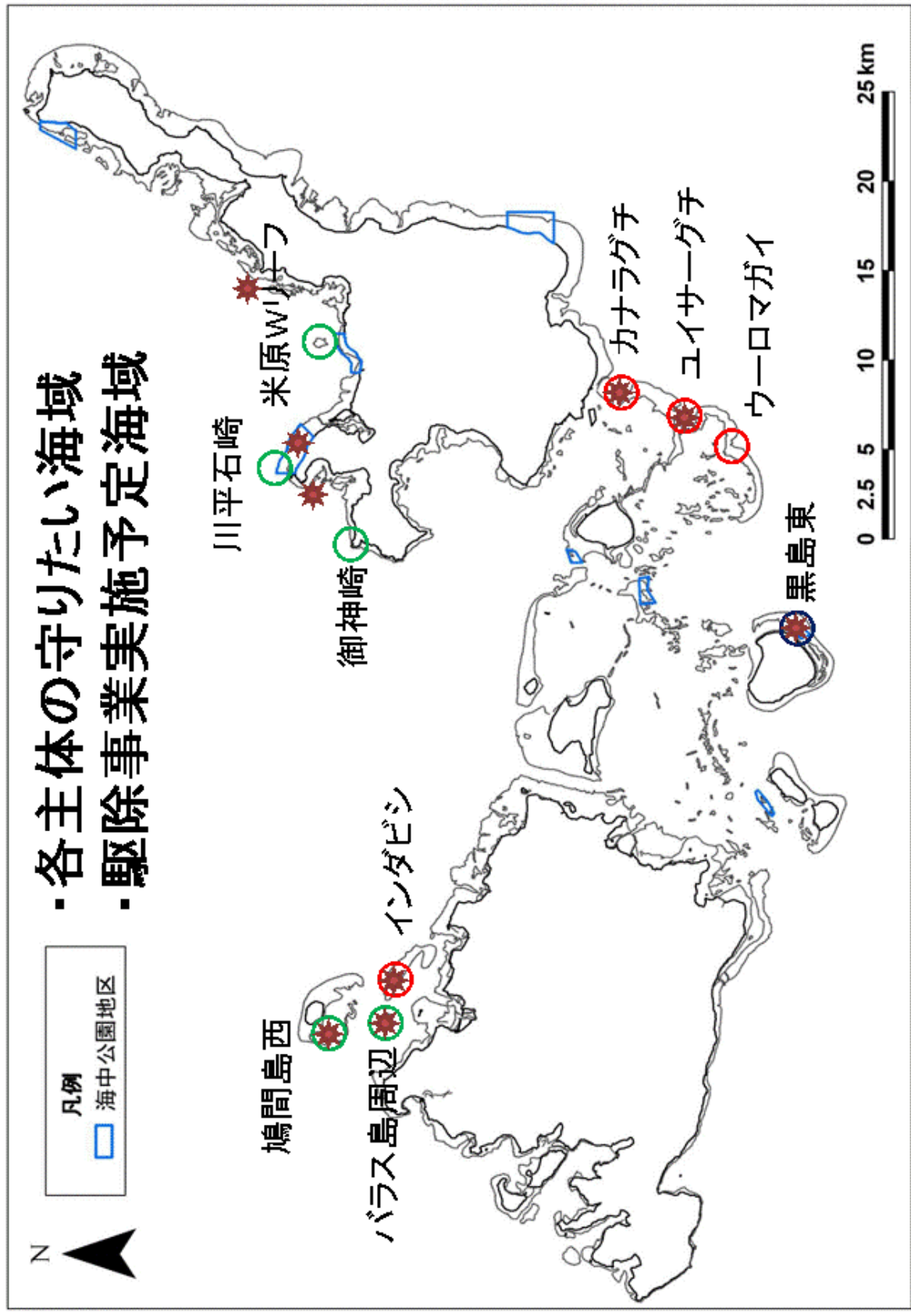
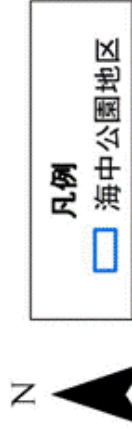
- ・オニヒトデ分布調査の方法（時期・地点数・調査方法は適当か。なお今年度からマンタ法による礁斜面調査を実施。）
 - ・トン袋を利用した分解処理、海中粉碎などの駆除方法の検討
 - ・駆除方針の徹底
 - ・駆除優先地域の中での優先順位付け
 - ・駆除評価方法の徹底（残ったサンゴで評価）
- } オニヒトデ対策協議会等で周知に努める。

(4) 平成 22 年度以降のオニヒトデ対策事業方針について

- ・具体的な事業についてはオニヒトデ対策協議会を通じて各機関と連携して実施
- ・自然再生事業の重要海域（再生区・保存区）を反映させた対策
- ・トン袋を利用した分解処理、海中粉碎などの実証試験
- ・今年度の各機関の取組みの取りまとめと評価

（駆除努力の投下量とオニヒトデ密度低下と守ることが出来るサンゴ量の評価）

- 各主体の守りたい海域
- 駆除事業実施予定海域



- 八重山ダイビング協会
- 竹富町ダイビング組合
- 八重山漁協
- 環境省
- ★ 事業による駆除予定地域